

# 平成29年度 校内研究 実践報告

研究主題『深い学びを実現する授業の創造 ～新学習指導要領を見据えて～』

文京区立本郷小学校



講演 4月4日  
講師：國學院大學教授 前文部科学省視学官  
田村 学 先生

社会の急激の変化に伴い、新しい時代に必要となる資質・能力の育成が求められるようになった。それが「主体的・対話的で深い学び」である。深い学びとは、習得・活用・探究という学び過程の中で各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けて、より深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることである。深い学びを実現するためには、事実の確認、関係性、自己の変容の気づきをリフレクションによって行うことが大切である。また、一つ一つの教科を一つとして捉えるのではなく、教科等横断的に捉え、学びをつなげて考えていくことが大切である。そのため、カリキュラムマネジメントが求められる。



5月15日 算数「直方体や立方体のかさの表し方を考えよう」  
5年1組 野口 夢子  
5年2組 小澤 拓也  
少人数算数 福田 豊

多様な方法で直方体を組み合わせた図形の体積の求め方を考え、求められるように行った授業である。この授業では、既習事項を用いて個人で考え、それぞれが考えを友達と伝え合うことや全体で共有することで自分とは違う考え方の良さに気付くようにした。また、その新たに気付いた考えを用いて問題解決に取り組んだ。

講師：文京区教育委員会統括指導主事、指導主事2名（区訪問）  
・単元指導計画をコース別の児童の実態に合わせて組み立てていたところがよかった。  
・対話的活動では、友達の図や式だけを見て、友達がどのように考えたのか、代わりに説明し合うなどの交流も考えられる。



6月28日 生活科「めざせ 野菜い作り名人」  
2年4組 T1伊原 晶子 T2平本 紀代子

江戸東京野菜のキュウリとスーパーで売られているキュウリを比べて、違いに気付かせたり、疑問を持たせたりすることで野菜に対する興味を高めて、これからの野菜の栽培に対する意欲を高められるように行った授業である。栄養教諭が野菜によって合う料理が違うこと。野菜は体の調子を整えてくれる役割あることについて知らせた。児童が書いたワークシートには、「大切に育てたい。」や「おいしく育てたい。」などの記述が見られた。

講師：文部科学省食育調査官 横嶋 剛 先生  
・児童のつぶやきが見られた授業。ただし、児童の「つぶやき」を「問い」と捉え、その「問い」を明らかにする『問題解決的な授業構成』にしていくことが課題である。  
・栄養教諭の専門性を活かしながら、知識だけを伝えて終わらせないように、児童への関わり方を考えていく必要がある。



9月14日 外国語活動「本郷の街を案内します」  
6年2組 長谷川 結

自分たちが住んでいる本郷小周辺の地図を用いて、積極的に英語で道案内をしようとするために行った授業である。道案内に必要な英語表現や建物を表す表現をゲームや歌を通して、親しみながら使えるようにした。また、道案内に必要な英語表現を使ったり、ジェスチャーを用いたりして、楽しみながら友達と交流することができた。

講師：文部科学省教科調査官 直山 木綿子 先生  
・英語を使わなくてはならないという必然性がある場面設定や活動の設定を計画的に行っていくことが大切であり、考えていかなければならない。  
・今後は、言語を覚えてきたら、どのような表現を使えば良いのかについて、選択・判断させていくことが大切である。



10月18日 社会科「郷土の発展につくす～青山土と荒川～」  
4年1組 若山 裕紀

写真や地図を使って、現在の荒川の様子と昔の荒川の様子を比べることで、洪水が多く起きていた昔の荒川が、「どうして洪水が起きなくなったの？」や「一体だれがやったのか？」などの疑問をもたせ、学習問題を設定した。その学習問題に対して、予想を考えた授業である。児童の予想には「洪水を防ぎたいから、がんばって工事をした。」や「安心して暮らせるように、多くの人々が協力した。」などの記述が見られた。

講師：聖徳大学大学院教授 廣嶋 憲一郎 先生  
・良い研究をしているので、指導要領を基に、だれかから教わるのではなく研究を続け、自分たちで深い学びをつくり上げてほしい。  
・学習の振り返りを単元や1時間ごとに書かせることを定着させることで資質・能力の成長や深い学びにつなげることができる。



10月24日 総合的な学習の時間「カイコはかせになろう」  
3年3組 大野 裕里

本単元は、まずカイコと出会い、カイコを育てていく体験を通してカイコの成長の過程や生態について調べていく段階と、その段階を踏まえてよりカイコを社会的に捉え、カイコの繭の活用やカイコと人との関わりなど、カイコについて幅広く、深く調べ学習を行った。研究授業では、はじめの段階で調べたことをグループで出し合い、キーワードとして分類し、さらに研究したいことを話し合った。このような活動を通して、新たな考え方や見方をできるようにした。

講師：國學院大學教授 田村 学 先生  
・一番知りたいことをはっきりとさせることが、学習の質を高めることになる。また、既習事項や体験と結びつけることが課題を考え、決めるときに重要となる。  
・振り返りを残すことが大切であり、思考を整理する力になる。そのため、箇条書きではなく、文章で書かせる必要がある。



11月8日 道徳「山びこ村の二人」(公平・公正)  
2年1組 清水 千種

誰に対しても、自分の好き嫌いとらわれないで接しようとする心情を育てるために、前段では、お話について話し合い、自分が「大事だと思ったこと」を書いた。その書いたことをもとに、互いの考えを聴き合い、全体で共有する中で、自分の考えを広げたり、気付いたり、深めたりすることができた。さらに、後段では、「これまでの自分」を振り返って書くことで、自分自身をじっくり見つめ、より深く考えることができるようになった。

講師：聖徳大学大学院教授 吉本 恒幸 先生  
・道徳の深い学びは、自分自身をどこまで見つめられるかが大切であり、多面的・多角的に見つめることができるようにしていく。  
・道徳的価値が拡散されてしまいがちなので、焦点化するためにも、ワークシートの文言や発問、補助発問が大切になってくる。



1月31日 国語「のりものずかんをつくろう」  
1年1組 T1吉田 文絵 T2福島 淳子

教科書教材の説明文「はたらくじどう車」を読み、自動車の「役割」や「つくり」に気を付け、内容を理解した後、「のりものずかんをつくろう」という課題を設定し、「書くこと」の学習へと発展させた。学級でオリジナルの図鑑を作るゴールに向けて意欲的に言語活動に取り組めるようにした。学校図書館や地域公共図書館の本を用いて、働く自動車について自分で調べ、「役割」や「つくり」を見付け、友達と学び合いながら書き出す学習を行うことで、情報活用能力の育成をねらった。

講師：国立教育政策研究所学力調査官 西川 さやか 先生  
・設定した「深い学びの姿」が、本単元で身に付けさせたい力につながっているか検証していく必要がある。  
・深い学びを通して資質・能力を育成するために、より詳細な教材研究や言語活動の分析が必要である。